

大分工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	地理
科目基礎情報						
科目番号	30C302		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	都市・環境工学科		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	山本正三ほか『新編 詳解地理B』, 『現代地図帳』, 二宮書店.					
担当教員	久保山 力也					
到達目標						
(1) 世界の地形, 気候について理解できる. (定期試験) (2) 世界の生活について理解できる. (定期試験) (3) 世界の地誌について理解できる. (定期試験) (4) 調査を実施し, 報告することができる. (実技評価: 調査ならびに報告)						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	世界の地形, 気候について十分に理解できる.		世界の地形, 気候についてある程度理解できる.		世界の地形, 気候について理解できない.	
評価項目2	世界の生活について十分に理解できる.		世界の生活についてある程度理解できる.		世界の生活について理解できない.	
評価項目3	世界の地誌について十分に理解できる.		世界の地誌についてある程度理解できる.		世界の地誌について理解できない.	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 (A1)						
教育方法等						
概要	現在の世界を理解するために地形や気候から, 人口や民族・宗教など系統地理学, そして地誌学へと繋がっていきます. また主に前期で調査・後期でこれを踏まえた報告を行っていただきます. 前期 1 コマ, 後期 1 コマ 授業時間 46.5 時間 関連科目 現代社会, 政治・経済, 日本史, 世界史.					
授業の進め方・方法	【授業の進め方】講義式ならびに調査・報告で行います. 適宜「学修プリント」を配布します. 【授業内容・方法】地理に関する諸問題を扱います. 【定期試験】達成目標 (1) (2) (3) につき4回の試験により評価 (90%) 【実技試験】達成目標 (4)につき, 調査ならびに報告により評価 (10%) 【合格ライン】総合評価60点以上を合格とします. 【再試験】総合評価が60点に満たない者に対して実施します.					
注意点	講義への主体的な参加を心掛けてください. 1 回目詳しく説明します. 学修プリントをきちんと見直してください.					
評価						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	地形Ⅰ (世界の地形)		世界の地形を理解できる.	
		2週	地形Ⅱ (河川, 海岸, 特徴的な地形)		河川や海岸の地形について理解できる.	
		3週	調査Ⅰ		調査の基礎が理解できる.	
		4週	気候Ⅰ (世界の気候)		気候の要素・因子について理解できる.	
		5週	調査Ⅱ		調査の基礎が理解できる.	
		6週	気候Ⅱ (気候区分, 植生, 土壌)		気候区分の基準・特色を理解できる.	
		7週	調査Ⅲ		調査の基礎が理解できる.	
		8週	気候Ⅲ (各地域の気候と生活)		地域の気候や生活の特色を理解できる.	
	2ndQ	9週	前期中間試験		—	
		10週	生活Ⅰ (人口総論)		世界の人口問題が理解できる.	
		11週	調査Ⅳ		具体的な調査技法が理解できる.	
		12週	生活Ⅱ (衣食住,言語,宗教)		世界の生活文化が理解できる.	
		13週	調査Ⅴ		具体的な調査技法が理解できる.	
		14週	生活Ⅲ (民族,国家,領土問題,国家群)		国際問題が理解できる.	
		15週	前期期末試験		—	
		16週	前期期末試験の解答と解説		—	
後期	3rdQ	1週	地誌Ⅰ (中国)		中国が抱える諸問題が理解できる.	
		2週	報告Ⅰ		調査に基づく報告ができる.	
		3週	地誌Ⅱ (韓国)		韓国が抱える諸問題が理解できる.	
		4週	報告Ⅱ		調査に基づく報告ができる.	
		5週	地誌Ⅲ (東南アジア)		東南アジアが抱える諸問題が理解できる.	
		6週	報告Ⅲ		調査に基づく報告ができる.	
		7週	地誌Ⅳ (アフリカ)		アフリカが抱える諸問題が理解できる.	
		8週	後期中間試験		—	
	4thQ	9週	報告Ⅳ		調査に基づく報告ができる.	
		10週	地誌Ⅳ (E U)		E Uが抱える諸問題が理解できる.	
		11週	報告Ⅴ		調査に基づく報告ができる.	
		12週	地誌Ⅴ (ロシアと中央アジア)		ロシアと中央アジアが抱える諸問題が理解できる.	

		13週	報告VI	調査に基づく報告ができる。
		14週	地誌VI（アメリカ）	アメリカが抱える諸問題が理解できる。
		15週	後期期末試験	—
		16週	後期期末試験の解答と解説	—

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3	後1,後3,後5,後7,後10,後12,後14
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	前8,前10,前12,前14,後1,後3,後5,後7,後10,後12,後14
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	前3,前5,前7,前11,前13,後2,後4,後6,後9,後11,後13
	工学基礎	グローバル化・異文化多文化理解	グローバル化・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	10	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	10	0	0	0	0	80
専門的能力	10	0	0	0	0	0	10
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10